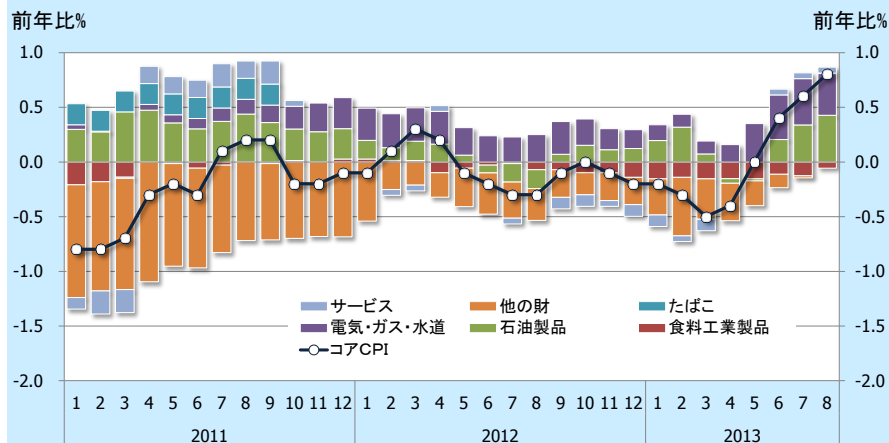


日本：消費者物価指数（2013年8月）

MRI Daily Economic Points
September 27, 2013

図表 消費者物価指数

生鮮食品除く総合の推移と品目別寄与



前年比%	12年		13年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生鮮食品除く総合												
全国	0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.4	0.0	0.4	0.7	0.8	
東京都区部	▲0.4	▲0.5	▲0.6	▲0.5	▲0.6	▲0.5	▲0.3	0.1	0.2	0.3	0.4	0.2
食料エネ除く総合												
全国	▲0.5	▲0.5	▲0.6	▲0.7	▲0.9	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.2	▲0.1	▲0.1	
東京都区部	▲1.0	▲0.9	▲1.0	▲0.9	▲1.0	▲0.8	▲0.7	▲0.3	▲0.4	▲0.4	▲0.4	▲0.3

資料：総務省「消費者物価指数」

評価ポイント

今回の結果

- 8月の全国消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合（コアCPI）が前年比+0.8%と、3ヶ月連続でプラスとなった。
- 食料およびエネルギーを除く総合（コアコアCPI）でみると、前年比▲0.1%と下落幅はゼロ近傍で推移。
- 8月のコアCPIの上昇には、ガソリン（前年比+13.2%）の大幅上昇による寄与が依然として大きい。その他、パソコン（デスクトップ型：同+24.4%、ノート型：同+9.3%）の上昇幅の拡大、テレビ（7月同▲5.3%→8月同▲1.9%）の下落幅の縮小が寄与した。
- 同日発表された、9月の東京都区部消費者物価指数（中旬速報値）は、コアCPIが前年比+0.2%と、5ヶ月連続のプラスとなった。
- 上昇に寄与したのは、エネルギー関連であり、電気代（前年比+5.6%）やガソリン（同+8.0%）が上昇した。電気基本料金引き上げの効果は一巡したものの、燃料価格高騰のため、電気代の上昇は続いている。

基調判断

- 消費者物価は緩やかに上昇しつつある。

今後の流れ

- 円安による輸入コスト増などから、電気代や石油製品を中心に値上げの動きが見られるほか、家電製品の価格下落の一服感が物価の上押し圧力となってきている。
- 9月には、複数の大手電力会社による基本料金引き上げが実施されたが、昨年実施された、他の大手電力会社の基本料金引き上げによる押し上げ効果がちょうど一巡することにより、全体としての押し上げ効果は幾分弱まる見通し。
- 需給ギャップが改善しつつあるほか、円安などを背景としたコストプッシュによって物価がプラスで推移しており、基調としては緩やかな上昇が続くだろう。中東情勢不安による原油高による影響も注目される。